



家庭教育支援者地区別研修（会津地区）

●目的： 家庭教育に関わる地域の課題や子どもたちを受け止める家庭環境づくりについて研修を深め、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の実践力を高める。

●日時：令和3年度11月18日（木）13：20～16：20

●場所：会津若松市北会津公民館

●参加者：55名

講演「子どもが学校へ行けなくなった時の支援」

～家族療法を支援に生かす～

公認心理師 新潟県新潟市スクールカウンセラー

佐藤 真奈美 様



〈14のポイント〉

- (1) 不登校の要因
- (2) 原因→結果では解決しない
- (3) 犯人はいない
- (4) 家族をシステムとして見なす
- (5) 家族との協働支援
- (6) 家族を支援することで支援策が増える
- (7) 協働支援で大切なこと
- (8) ジョイニングスキル
- (9) なぜ学校に行くのか
- (10) 家の中で元気になろう
- (11) できそうな方法を
- (12) 例外探し
- (13) 子どもにとって一番心強いこと
- (14) 保護者、支援者のメンタルケア



【参加者の声】

- 日々漠然と思っていること、感じていることの根拠を示してもらったので少し自信が持てた。
- 家族と溶け込むためのポイントやスキルを聞いて、今までの自分の支援を改めていこうと思った。
- 原因探しをしないこと、子どもにエンパワーメントすること、ジョイニングで支援することなど、未来志向の考え方や取組に共感できた。
- どんな家族でも努力しているということをしっかり頭に置き、言葉を選んで接したいと思った。

〈質疑・応答〉

- 学校に来ると次の日から全く来なくなる。
→ 本人と無理矢理でなく有効な方法を徐々に決めていく。
- 登校しても母親と離れられない。
→ 母親がいられるなら一緒にいてもらいながらできることを増やしていく。
- 高校生で不登校。家ではゲームばかりなのでゲームを取り上げてよいか。
→ ゲームを取り上げても別のものを探す。このような状態でも親は受け入れていることと表す。

【参加者の声】

- 具体的な事案に対し、どうしたらいいかのヒントをたくさんもらった。
- 昼夜逆転したから学校へ登校できないのではなく、学校へ登校できないから昼夜逆転したという話が、腑に落ちた。
- 解決には、「本人の気持ち・意思」を大切にすることを心に留めて置きたい。
- 他人は変えられない、困っていない人は変えられないという話が、共感できた。
- 参加者の皆さんが同じように悩み、少しでも状況を良くしたいと考えていることを知り、また明日から頑張ろうと思えた。